

2024年3月期  
**決算説明資料**

2024年5月28日

**小池酸素工業株式会社**

証券コード 6137

# 本日お伝えしたいこと

## 当社の概要

- 1918年の会社創業以来、ガスエネルギーを利用した工作機械のオピニオンリーダーとして、基幹産業発展の一翼を担う
- 時代の進歩とともに、他に先駆けて「ガス」「プラズマ」「レーザ」を利用した切断機を開発し、NC（数値制御）による高度な自動システムを製品化
- また、ガス・溶接・切断のトータルシステムサプライヤーとして、お客様のあらゆるご要望にお応えできる体制を確立

## 2024年3月期決算概要・2025年3月期業績予想

- 2024年3月期は、当社オンリーワン技術であるDBC（デュアル・ビーム・コントロール）ファイバーレーザ切断機の販売が大きく伸びたことや、米国子会社の好調（大型ポジショナー等）等により、売上高・利益とも大幅に伸長
- 2025年3月期は、人件費増やシステム関連費用等による費用増はあるものの、引き続きDBCファイバーレーザ切断機の国内外市場での販売強化等により売上高・利益は横ばい～微増を見込む

## 中期経営計画

- 前中期経営計画（2021年度-2023年度）では目標とした指標（売上高470億円、経常利益率6.5%、ROE4.5%）をいずれも達成
- 2024年度からの中期経営計画では、NEXT STAGEに進むべく、中長期的視野に基づく発展を念頭に、将来の成長に向けた着実な投資を実行し、変化し続ける世界市場に向けた新技術・新製品の開発及び販売を強化

# 当社の概要

---

# 会社概要①

会社名	小池酸素工業株式会社
本社所在地	東京都墨田区太平三丁目4番8号 KOIKE Bld.7階
創業年月日	1918年10月15日
会社設立年月日	1936年12月8日
資本金	40億2847万2259円
上場区分	東証スタンダード（コード：6137）
従業員数	連結 1,034名、単体 323名（2024年3月31日現在）
代表者	小池 英夫
事業内容	ガス・溶接・切断のトータルシステムサプライヤーとして、鉄やアルミ・ステンレスなど金属材料を加工するあらゆる産業に様々な種類のガスおよび溶接・切断のための加工機械やシステムならびに関連製商品を開発・生産・販売
国内製造拠点	【機械装置】KOIKEテクノセンター（千葉市緑区）、【切断器具、医療機器】株式会社群馬コイケ、【ガス】千葉工場、白井工場、兵庫工場、その他充填会社
国内販売拠点	関東支社、京葉支社、札幌営業所、東北営業所、茨城営業所、北関東支店、名古屋支店、大阪支店、神戸営業所、中国支店、四国営業所、九州支店、長崎営業所 他
国内グループ会社	株式会社小池メディカル、コイケ酸商株式会社、株式会社群馬コイケ（以上、連結子会社）、株式会社コイケテック、株式会社菱小、小池化学株式会社、中国アセチレン株式会社 他
海外グループ会社	Koike Aronson, Inc.、Koike Europe B.V.、Koike Korea Engineering Co., Ltd.、小池酸素(唐山)有限公司（以上、連結子会社）、Koike Cutting & Welding(INDIA)PVT.LTD 他

# 会社概要②

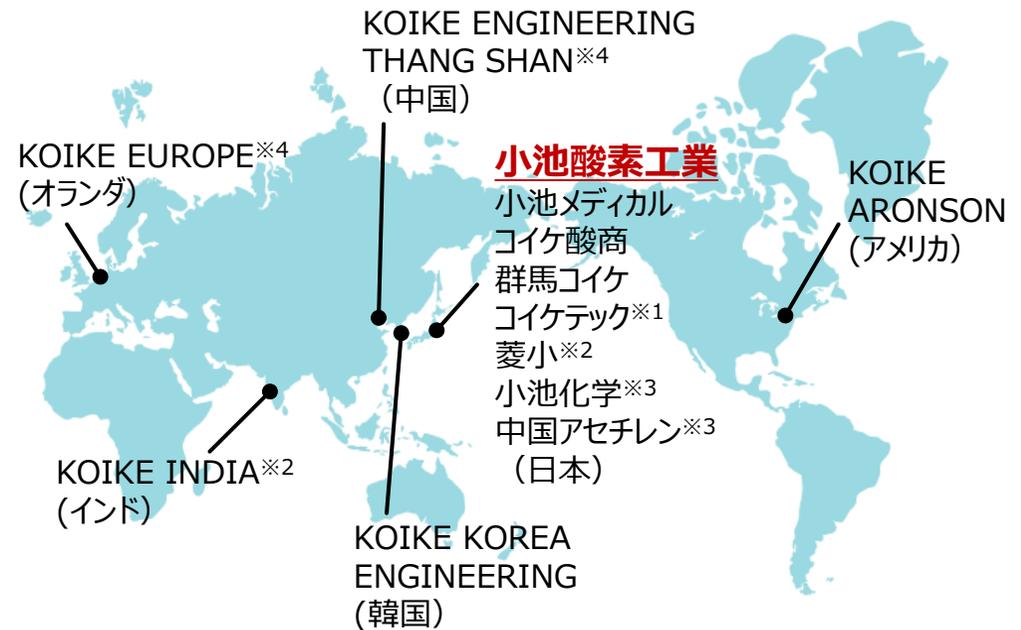
## ＜経営理念＞

ガス・溶接・切断の総合製造・販売会社として  
世界市場での顧客の満足と信頼を獲得する

## ＜事業セグメント＞



## ＜グローバルネットワーク＞



※1 持分法適用会社

※2 非連結子会社

※3 関連会社

※4 別途、中国、フランス、イタリアに販売子会社あり



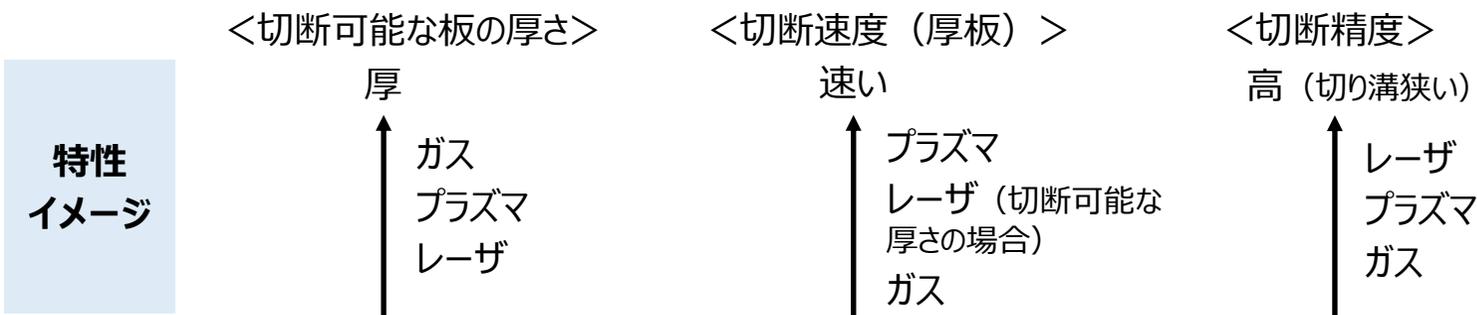
# セグメント概要

セグメント名	製品ラインナップ	概要
<b>機械装置</b>	切断機、溶接治具、関連ソフトウェア等 	<ul style="list-style-type: none"> <li>厚板切断を中心に、熱切断（ガス・プラズマ・レーザ）技術を活かし、半自動のポータブル切断機から大型のCNC切断機まで多くの機種を製造販売。周辺機器から関連ソフトウェアまで幅広く取り扱う</li> <li>販売先は造船、橋梁、建設業界向けが大半</li> </ul>
<b>高圧ガス</b>	ガス、関連機器、医療機器等 	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業用・医療用主体に高圧ガスを製造・販売。シリンダーガス（ガスボンベ）供給メーカーとして、全国に充填工場を構え、販売店、各業種の工場及び病院向けに納入</li> <li>医療分野ではCPAP、酸素濃縮器、酸素流量計、吸引器、パルスオキシメーター等を取り扱う</li> </ul>
<b>溶接機材</b>	溶接機、溶接ワイヤ、溶接関連資材等 	<ul style="list-style-type: none"> <li>溶接関連機材・製商品の国内代表メーカーと提携し、商社として、溶接機・溶接ロボット・溶接自動化装置や溶接材料を販売</li> <li>また、各種産業機器・保護具等、生産現場で必要な器具を幅広く販売。ガスホース接手や乾式安全器では、国内・海外のトップブランドであるアポロロックを有す</li> </ul>
<b>その他</b>	排ガス処理装置、ヘリウム回収精製装置等 	<ul style="list-style-type: none"> <li>液晶や半導体製造に使用される可燃性ガス、毒性ガス等を独自の方式で燃焼、分解させる燃焼式排ガス処理装置を製造・販売</li> <li>光ファイバーや半導体等の製造工程中に利用されたヘリウムガスを効率良く回収・精製しリサイクルするヘリウム回収精製装置を製造・販売</li> </ul>

# ガス、プラズマ、レーザーについて

- 切断材料となる金属は大きく分けて厚板（造船、橋梁、建設業界等）と薄板（自動車等）があり、当社は厚板を中心とした切断機を扱っています。厚板切断機は薄板用と比較するとニッチな市場となっております。
- 切断（溶断）方法としては、ガス、プラズマ、レーザーの3種類に分けられます。いずれも熱エネルギーで金属を溶かして切断することは同じですが、それぞれ特性があり、使用目的によって使い分けられています。

切断方法	概要
ガス	ノズルの先端で形成された炎によって、切断部を加熱し、そこに酸素を吹きこみ、酸化反応を起こさせるとともに、溶融した切断材料を吹き飛ばして切断する
プラズマ	加工する金属と電極の間においてプラズマアークを作り出し、それにより高温になった切断材料が溶融した後、エアやガスなどの気体を強い圧力で流し込み、溶融部分を吹き飛ばすことによって切断する
レーザー	虫眼鏡による熱発生原理を応用した切断方法。レーザービームをノズル先端より材料に照射する際に、レンズで絞り込み、切断材料が溶融した後、各材料に最適な種類のガスをレーザービームと同軸に切断材料に吹き付けて、溶融部分を吹き飛ばすことによって切断する



# 2024年3月期 決算の概要

---

# 決算ハイライト

---

- 2024年3月期は売上高・利益とも大幅に伸長し、経常利益については、過去最高となりました。
- 当社オンリーワン技術であるDBC（デュアル・ビーム・コントロール）ファイバーレーザー切断機の販売が大きく伸びたことや、米国子会社の好調（大型ポジショナー等）等が業績をけん引しました。
- また、産業ガス分野における原材料や電気料金の高騰に伴う価格改定への注力、医療分野における呼吸器関連の医療機器レンタル、溶接機材部門における作業環境改善を目的とした自動化機器などの販売が堅調に推移したことなども業績を支えました。

# 2024年3月期 連結決算サマリー

- 2024年3月期は売上高・利益とも大幅に伸長し、経常利益については、過去最高となりました。
- 当社オンリーワン技術であるDBCファイバーレーザ切断機の販売が大きく伸びたことや、米国子会社の好調（大型ポジショナー等）等が業績をけん引しました。

(百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	売上比	伸び率 (前年比)
連結売上高	39,247	41,834	47,871	<b>51,387</b>	100%	+7.3%
売上総利益	11,479	12,213	14,020	<b>15,638</b>	30.4%	+11.5%
販売費及び 一般管理費	10,341	10,523	10,728	<b>11,323</b>	22.0%	+5.5%
営業利益	1,137	1,690	3,292	<b>4,314</b>	8.4%	+31.0%
経常利益	1,365	2,063	3,786	<b>5,149</b>	10.0%	+36.0%
親会社に帰属する 当期純利益	△61	995	2,065	<b>3,056</b>	5.9%	+48.0%

# 地域別売上高

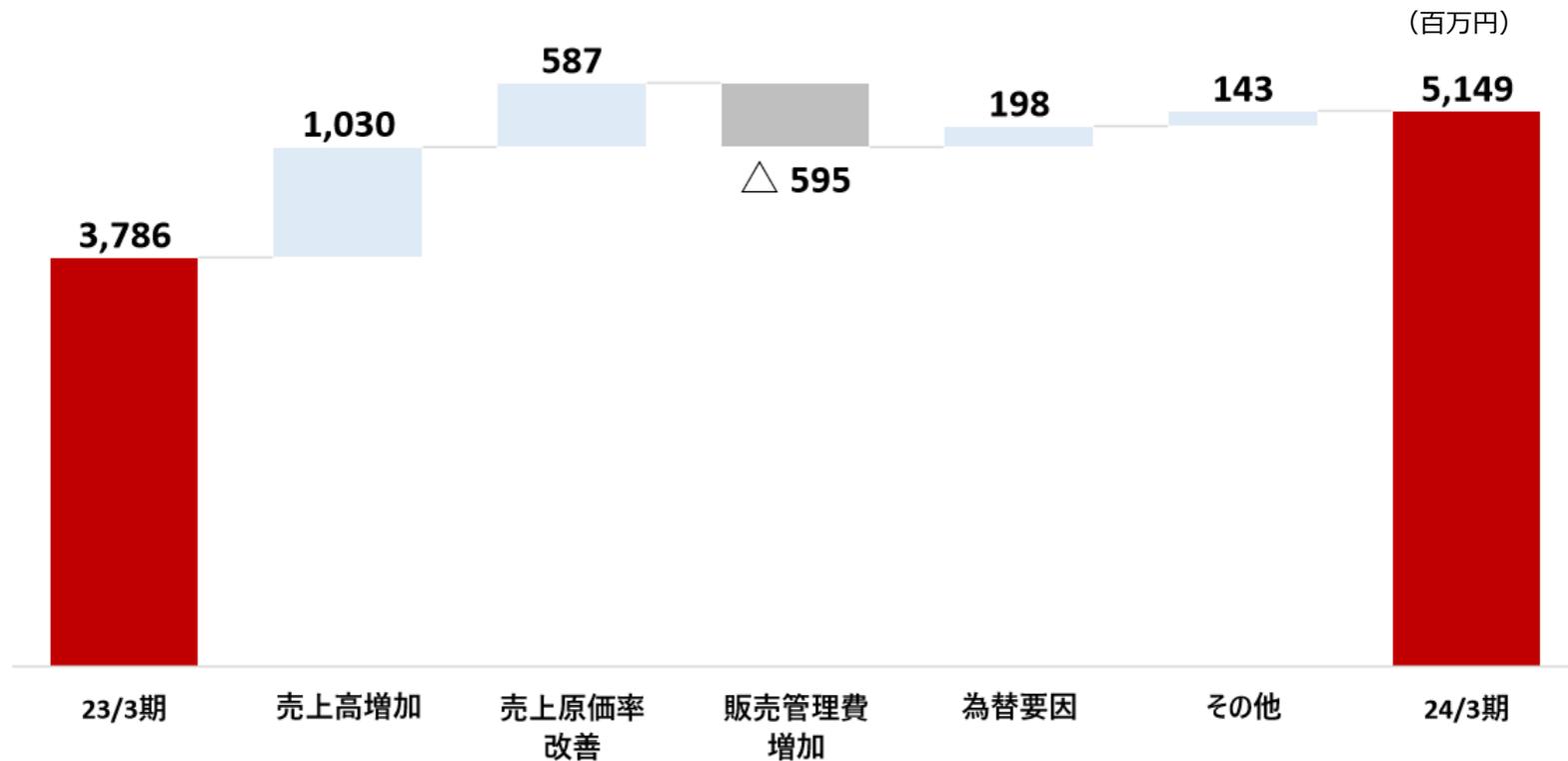
- 海外売上高は北米とアジア（主に韓国・中国）を中心に全体の約24%を占めています。
- 前年からの伸び率についても北米とアジアが高くなっています。

(百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	構成比	伸び率 (前年比)
日本	31,970	34,223	37,588	<b>39,226</b>	76.3%	+4.3%
北米及び 中南米	2,611	3,355	4,988	<b>6,108</b>	11.9%	+22.5%
アジア	3,399	3,154	4,204	<b>4,896</b>	9.5%	+16.4%
欧州	1,242	1,015	1,065	<b>1,051</b>	2.0%	△1.3%
その他の地域	24	84	24	<b>106</b>	0.2%	+341.6%
合計	39,247	41,834	47,871	<b>51,387</b>	100%	+7.3%

# 経常利益増減要因

- 大型機械装置の販売が好調であったことを受けて、経常利益は大幅に伸長しました。
- 販売管理費増加の主因は給与引き上げ等による人件費増などです。
- 円安の進展による為替要因も利益水準を引き上げました。



# 連結貸借対照表

- 資産の部 : 現預金（含短期有価証券）+1,588百万円、売上債権+1,534百万円、投資有価証券+4,074百万円（時価上昇による）
- 負債の部 : 仕入債務+750百万円、繰延税金負債+1,656百万円
- 純資産の部 : 利益剰余金+2,504百万円、その他有価証券評価差額金+2,699百万円
- 自己資本比率は、50%台前半で安定的に推移

(百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	前年比
<b>資産の部</b>					
流動資産	29,949	33,613	37,563	<b>41,247</b>	+3,684
固定資産	26,266	26,322	27,371	<b>31,392</b>	+4,021
<b>資産合計</b>	<b>56,215</b>	<b>59,935</b>	<b>64,934</b>	<b>72,639</b>	<b>+7,705</b>
<b>負債の部</b>					
流動負債	17,581	20,088	23,274	<b>24,241</b>	+967
固定負債	6,724	6,153	5,580	<b>6,594</b>	+1,014
<b>負債合計</b>	<b>24,306</b>	<b>26,241</b>	<b>28,855</b>	<b>30,836</b>	<b>+1,981</b>
<b>純資産の部</b>					
株主資本	25,667	26,394	27,931	<b>30,487</b>	+2,556
その他包括利益累計額	3,770	4,390	5,281	<b>8,277</b>	+2,996
非支配株主持分	2,471	2,907	2,866	<b>3,037</b>	+171
<b>純資産合計</b>	<b>31,909</b>	<b>33,693</b>	<b>36,079</b>	<b>41,803</b>	<b>+5,724</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>56,215</b>	<b>59,935</b>	<b>64,934</b>	<b>72,639</b>	<b>+7,705</b>
<b>(自己資本比率)</b>	<b>(52.4%)</b>	<b>(51.4%)</b>	<b>(51.1%)</b>	<b>(53.4%)</b>	<b>(+2.3%)</b>

# キャッシュ・フロー計算書

- 営業CF：減価償却費1,464百万円、売上債権増加+1,876百万円（他に期末日休日要因 670百万円あり）
- 投資CF：有形固定資産取得による支出1,127百万円
- 財務CF：長期借入金返済・ファイナンスリース債務返済1,040百万円、配当金支払378百万円
- 営業CFについては、今後成長に向けた投資や株主還元等に活用する方針

(百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	前年比
営業活動による キャッシュ・フロー	3,144	3,784	5,644	<b>4,458</b>	△1,186
投資活動による キャッシュ・フロー	△2,157	△712	△2,043	<b>△1,430</b>	+613
財務活動による キャッシュ・フロー	318	△1,514	△1,692	<b>△1,496</b>	+196
現金及び現金同等物に 係る換算差額	179	169	367	<b>86</b>	△281
現金及び現金同等物の 増減額（△は減少）	1,485	1,726	2,275	<b>1,617</b>	△658
現金及び現金同等物の 期首残高	9,085	10,571	12,297	<b>14,573</b>	+2,276
現金及び現金同等物の 期末残高	10,571	12,297	14,573	<b>16,190</b>	+1,617

# セグメント別決算概要

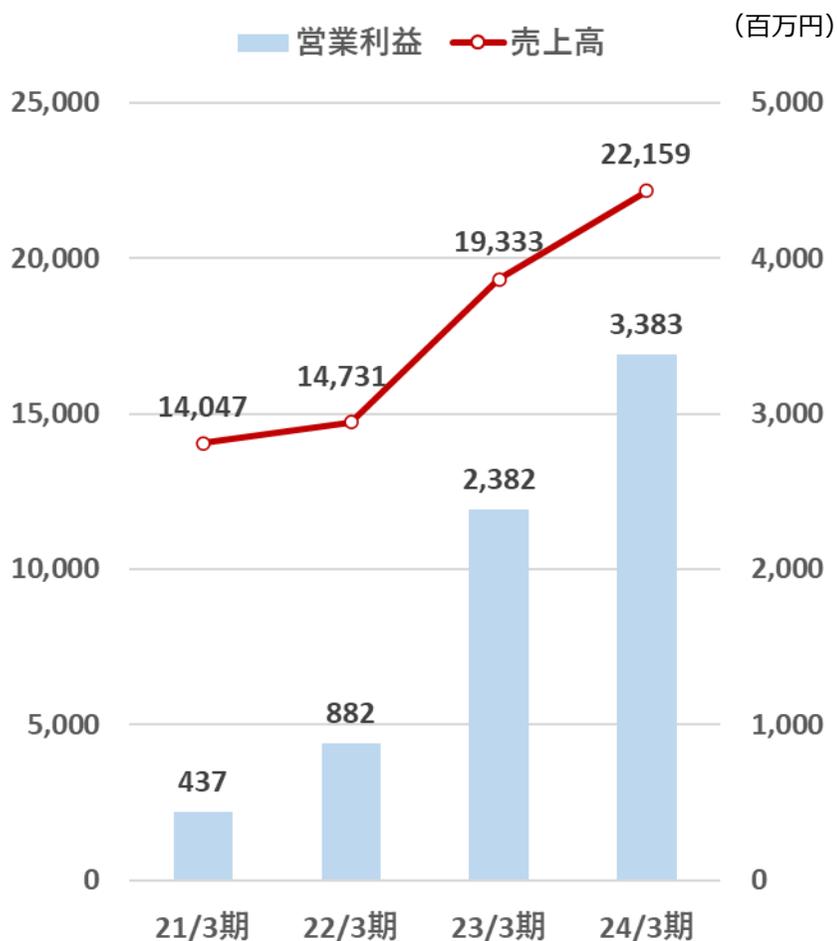
- DBCファイバーレーザー切断機の販売が大きく伸びたことや、米国子会社が好調（大型ポジショナー等）であったことを主因に、機械装置セグメントの業績が大幅に伸長しました。
- 高圧ガスセグメント、溶接機材セグメントは、成長性や利益率では機械装置セグメントに及ばないものの、安定的に推移し、会社全体の業績を支えています。

(百万円)

	2021年3月期		2022年3月期		2023年3月期		2024年3月期		前年比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
機械装置	14,047	437	14,731	882	19,333	2,382	<b>22,159</b>	<b>3,383</b>	+2,826	+1,001
高圧ガス	16,224	932	18,830	1,314	19,264	1,454	<b>20,103</b>	<b>1,455</b>	+839	+1
溶接機材	7,797	391	7,906	490	8,588	574	<b>8,343</b>	<b>604</b>	△245	+30
その他	1,177	204	366	20	684	184	<b>780</b>	<b>231</b>	+96	+47
単純合計	39,247	1,966	41,834	2,708	47,871	4,596	<b>51,387</b>	<b>5,674</b>	+3,516	+1,078
調整額※	—	△829	—	△1,017	—	△1,303	—	<b>△1,359</b>	—	△56
連結	39,247	1,137	41,834	1,690	47,871	3,292	<b>51,387</b>	<b>4,314</b>	+3,516	+1,022

※調整額：報告セグメントに帰属しない全社費用（一般管理費）等

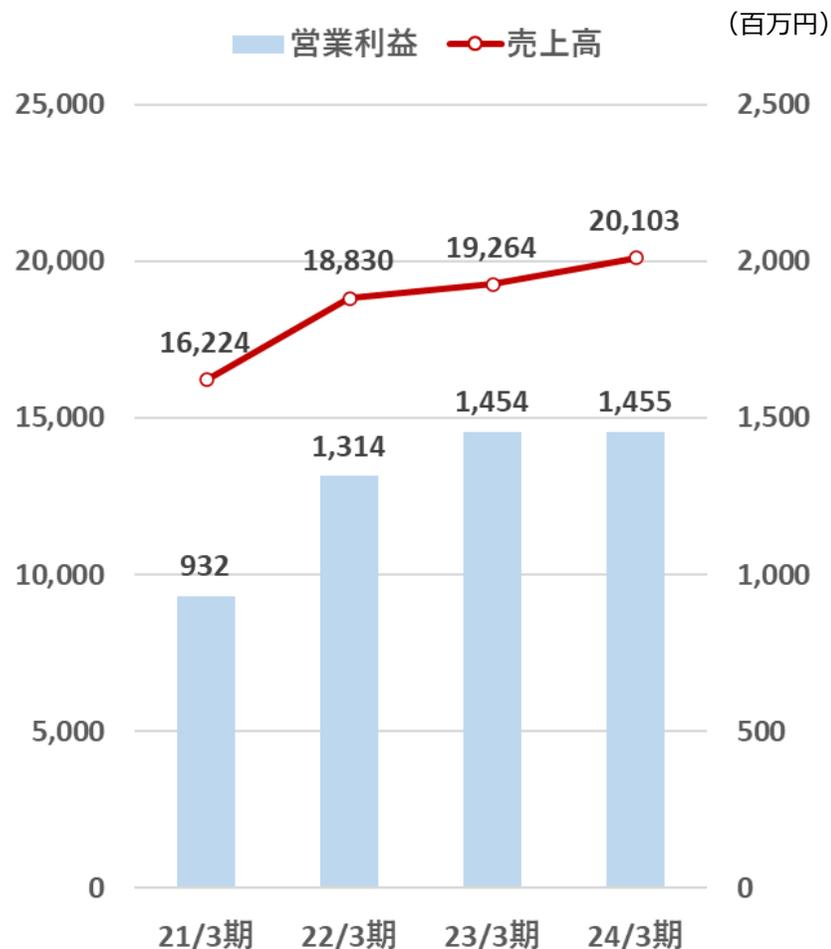
# セグメント別決算概況：機械装置セグメント



- 機械装置セグメントにおいては、売上高・営業利益とも増加しました。
- 国内市場では、DBCファイバーレーザー切断機を中心に販売が好調に推移しました。また、12月に「2023 KOIKEプライベートフェア」を開催し、新型DBCファイバーレーザー切断機「FIBERTEX- $\mathcal{L}$ シリーズ」を披露し、多数の新規引き合いを獲得しました。
- さらに、10月から3月にかけて「創業105周年記念 グランド105セール」を開催し、全国の販売代理店とともに汎用切断機器の拡販に取り組みました。
- 海外市場では、米国ではDBCファイバーレーザー切断機を9月の「FABTECH Chicago2023」に出展し、販売活動を開始しました。また、大型の溶接ポジショナーの販売が好調に推移したことにより、売上高・利益とも増加しました。

※営業利益は全社費用等の調整前ベース

# セグメント別決算概況：高圧ガスセグメント

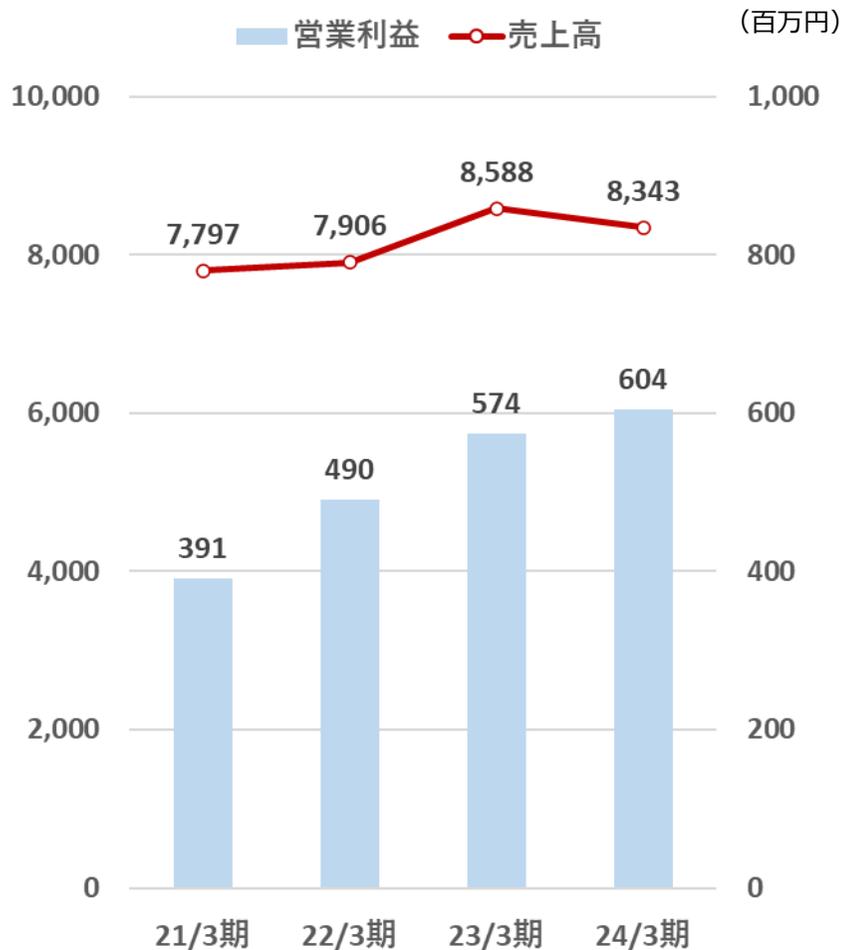


- 高圧ガスセグメントにおいては、売上高は増加、営業利益は横ばいとなりました。
- 産業ガス分野においては、原材料や電気料金の高騰等がみられる中、価格改定や新規拡販活動に注力したことにより、売上高は増加しました。
- 医療分野においては、新型コロナウイルス感染症の鎮静化に伴い、関連する機器の売上は減少しましたが、CPAP※レンタルや院内感染防止対策機器の営業活動に注力した結果、引続き高水準の営業利益を確保することが出来ました。

※CPAP：睡眠時無呼吸症候群患者の呼吸をサポートする器具

※営業利益は全社費用等の調整前ベース

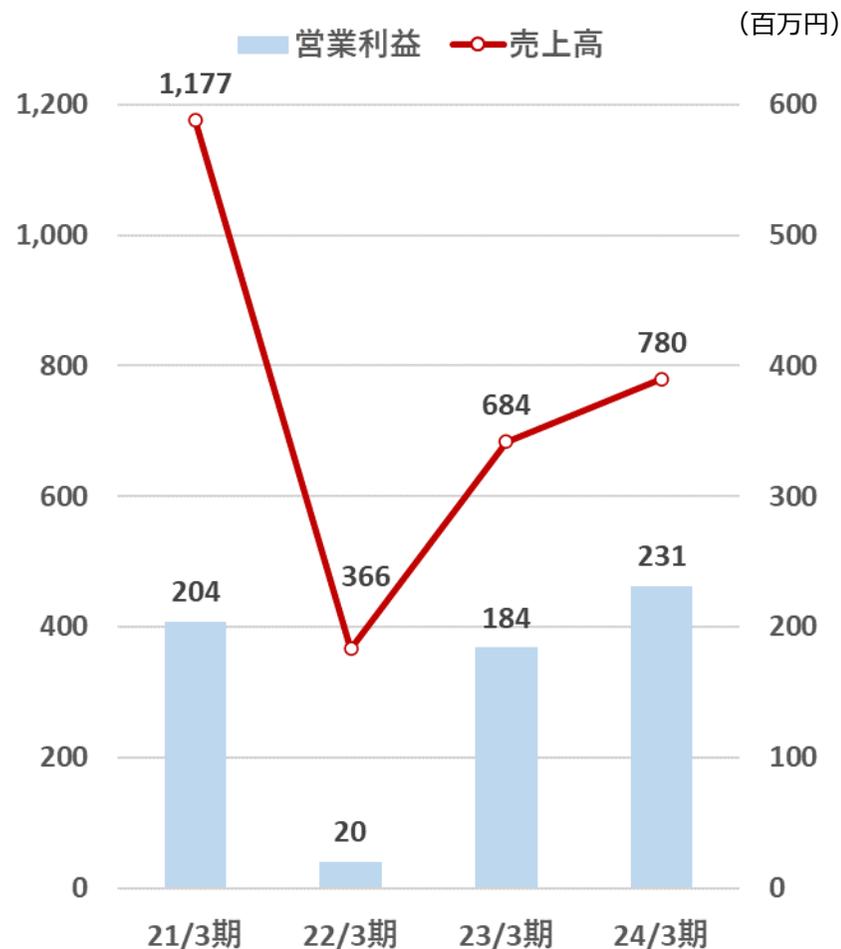
# セグメント別決算概況：溶接機材セグメント



- 溶接機材セグメントにおいては、売上高は減少するものの営業利益は増加しました。
- 資材・原材料価格の高止まりから溶接材料は需要が伸び悩み、「創業105周年記念グランド105セール」や各種展示会を通じて、溶接ロボットシステムや高機能溶接機、工具などの販売を推進しましたが、効果は限定的となり、売上高は減少しました。
- 一方、作業環境改善を目的とした自動化機器の提案やアポロセフティファーストキャンペーンなどの安全啓蒙活動を通じてお客様の課題解決に注力したことにより、付加価値の高い商品の受注が増加し、営業利益は増加しました。

※営業利益は全社費用等の調整前ベース

# セグメント別決算概況：その他

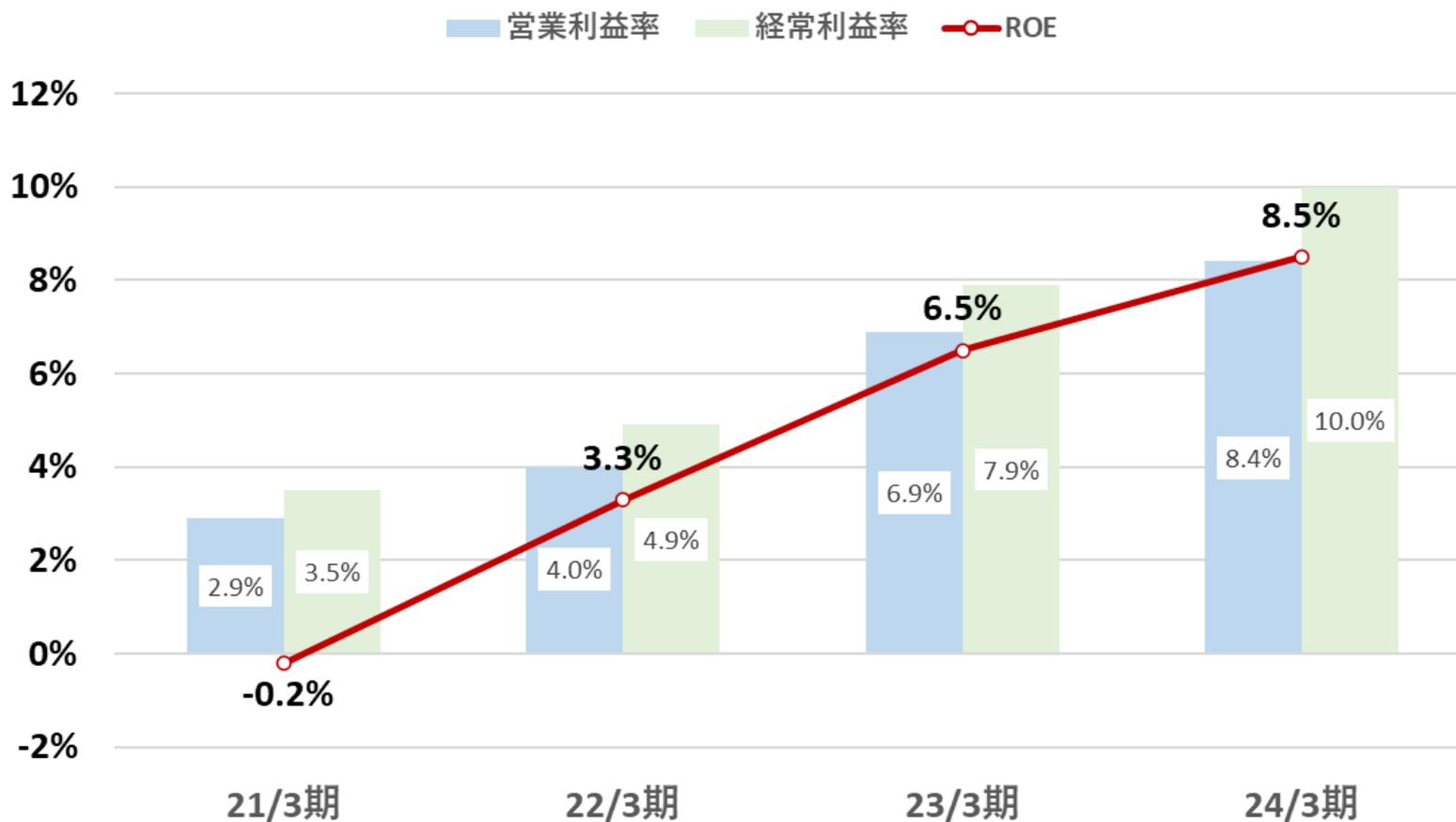


- その他セグメントにおいては、売上高・営業利益とも増加しました。
- 海外向けの排ガス処理装置の販売が減少しましたが、ヘリウム回収精製装置の受注が増加したことにより、売上高は増加しました。

※営業利益は全社費用等の調整前ベース

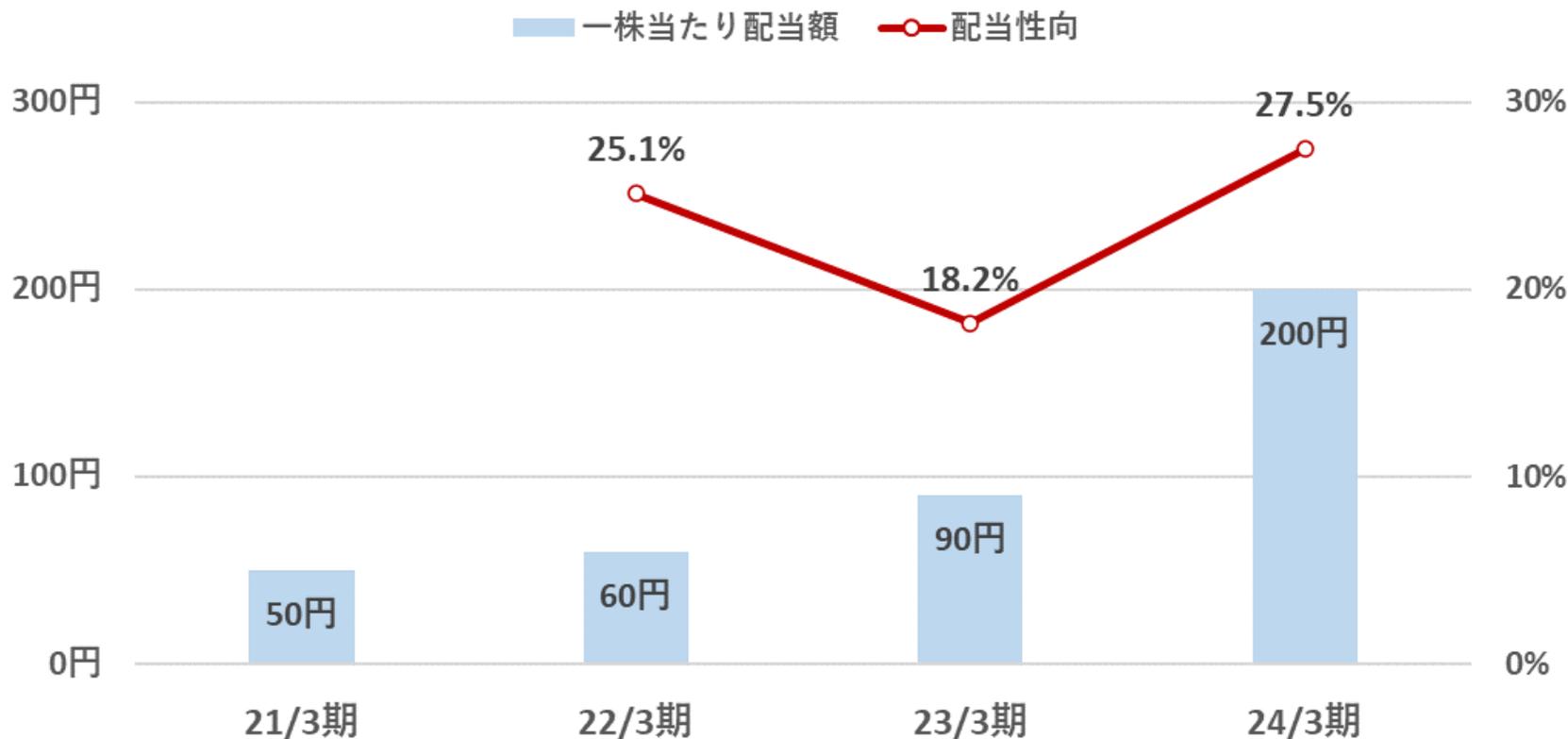
# 経営指標推移

- ROEは長年、5%を下回る水準で推移していましたが、各利益率の改善により、2024年3月期は8.5%となりました。



# 株主還元状況（配当）

- 当社は安定した配当を維持する方針としていますが、2024年3月期については、株主還元を充実させる観点や、当初の通期業績予想を大きく上回る実績となることから、一株当たり200円の配当を予定しております。



※21/3期の配当性向は、  
当期純損失のため、算出せず

# 2025年3月期 業績予想

---

# 業績予想（連結）

- 当社グループ全体としては、各施策の実行による緩やかな売上高の増加を見込むも、給与引き上げや採用コスト増による人件費増、システム関連費用の増加等から、営業利益は微増、経常利益は概ね横ばい（為替差益等のスポット要因を除いたベース）を予想。
- 一株当たり配当は、引き続き200円を予想。

（百万円）

	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	増減金額	増減率
連結売上高	51,387	<b>52,000</b>	+613	+1.2%
営業利益	4,314	<b>4,400</b>	+86	+2.0%
経常利益	5,149	<b>4,800</b>	△349	△6.8%
親会社に帰属する 当期純利益	3,056	<b>2,700</b>	△356	△11.6%
一株当たり配当	200円 (予定)	<b>200円</b>	±0円	(配当性向) 31.1%

想定為替換算レート：1 \$ = 140円、1 € = 157円

# 業績予想（セグメント別）および受注状況

## ＜業績予想（セグメント別）＞

（百万円）

	2024年3月期 実績		2025年3月期 予想		前年比	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
機械装置	22,159	3,383	<b>22,300</b>	<b>3,500</b>	+141	+117
高圧ガス	20,103	1,455	<b>20,400</b>	<b>1,400</b>	+297	△55
溶接機材	8,343	604	<b>8,470</b>	<b>650</b>	+127	+46
その他	780	231	<b>830</b>	<b>250</b>	+50	+19
単純合計	51,387	5,674	<b>52,000</b>	<b>5,800</b>	+613	+126
調整額※	—	△1,359	—	△1,400	—	△41
連結	51,387	4,314	<b>52,000</b>	<b>4,400</b>	+613	+86

## ＜受注状況＞

	受注高（百万円）	前年同期比	受注残高（百万円）	前年同期比
機械装置	15,639	102.7%	7,579	95.5%

# セグメント別 取り組みのポイント

---

- 機械装置セグメントにおいては、当社オンリーワン技術のDBCファイバーレーザー切断機の更なる販売強化に努めていくとともに、機械性能向上、切断現場の自動化を目指した周辺機器の研究開発に注力。また、米国等の海外市場においてもDBCファイバーレーザー切断機の販売を強化。
- 高圧ガスセグメントにおいては、産業ガス分野では機械との一体販売の更なる推進などにより新規顧客の獲得に取り組むとともに、2024年問題による物流コスト上昇等に伴う価格改定に取り組み。また、将来に向けたガス事業の構造改革として充填工場の再構築や配送の合理化を推進し、安全、安定供給および原価低減を図る。  
医療分野においては、在宅医療拡大の流れの中で、酸素濃縮器レンタル、CPAPレンタルなどの営業強化に注力。
- 溶接機材セグメントにおいては、省エネルギー、カーボンニュートラル、労働環境改善など、職場の安全と効率化やSDGs 課題の解決に資する商材の拡販活動に注力。また、資材や運送費等の仕入価格高騰等に伴う商品価格の改定に取り組み。
- その他セグメントにおいては、カーボンニュートラル時代を見据えた新製品として、水素を燃料とした排ガス処理装置の開発に取り組み。また、ヘリウム液化関連機器の受注、半導体市場向けヘリウム回収精製装置の開発など、ヘリウムリサイクル事業の拡大にも取り組み。

---

本資料に記載されている業績予想・計画ならびに将来予測は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び、将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

**【お問い合わせ先】**

小池酸素工業株式会社

経営企画室長：川田 担当：山村

TEL：03-3624-3118

Email：IR@koikeox.co.jp